

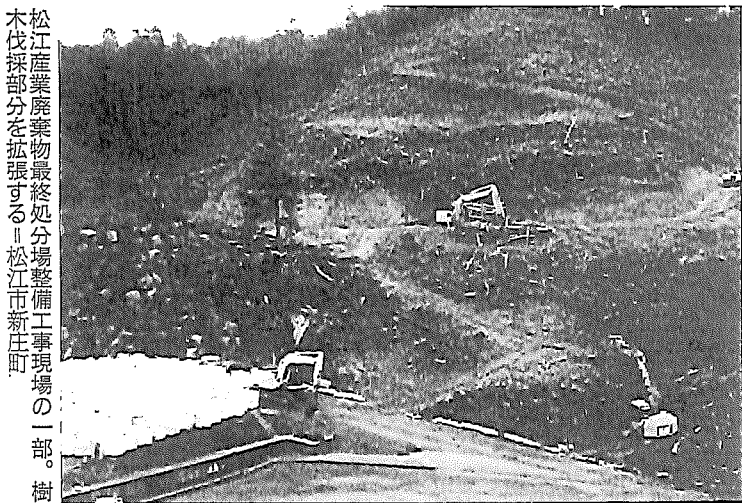
まつえ環境の森

産廃処分場整備に着工

工事費
約10億

8-9月受入開始へ

まつえ環境の森(松江市新庄町、秋山光夫社長)は、亀屋産業(隠岐の島町有木、大田展久社長)から事業譲渡で取得した松江産廃産物最終処分場の整備工事に着工した。既存産物の移動・埋立や既設処分場の改修を行うとともに、南西側を主体に2万4970㎡拡張し、全体埋立容量82万3458㎡(拡張分4万8940㎡)とするもので、1期工事完了後の8-9月受け入れ開始を目指す。工事費約10億円で14年1-2月完成予定。



松江産廃産物最終処分場整備工事現場の一部。樹木伐採部分を拡張する。松江市新庄町

工事は、12年10月に産廃処理施設建設許可を取得して、昨秋11月に着工。1期工事では、拡張部分にある既存産廃1万6000㎡をフレコン詰めして北側に埋設・一部仮置き。樹木伐採を進めており、既設処分場の改修工事(掘削・運搬・完了する。

2期工事では、仮置きした既存産廃を1期処分場に移転するとともに、北西側の本体工事に着手。切盛り工事1万1700㎡や法面工、遮水シート工1万6000㎡、道路工などを施工して完成する工程。施工は、元請けが兵庫県内の総合建設

業者で、下請けはほぼ全てを地元業者とする。同社は、前身の亀屋環境を12年1月に設立し、亀屋産業が6月に民事再生法の再生計画認可決定を受けた後、7月に亀屋産業と12億6000万円で事業譲

渡契約を締結。地域への説明・同意を進め、10月1日に「まつえ環境の森」に社名変更した。資本金1億円で東京、大阪に支店を設け、産廃の収集・運搬・処理業のほか、輸出入や再生品の製造・販売、動産・不動産の

賃貸業を手掛ける。まつえ環境の森は、資本・役員は亀屋産業と無関係だが従業員を引継ぎ雇用。新施設では、地元を中心に中間処理された産廃と一般廃棄物を受け入れる方針で、拡張後の許容量

を見込んでいる。また、産廃処理施設の計画設計を手掛けるNPO法人・環境技術支援ネットワーク(東京都)をコンサルタントに、技術・運営・維持管理等の指導を受ける。同社では「新たな処分場に生まれ変わる。

地元の理解・信頼を得られるよう適正処理や透明性のある運営に努め、皆さんから「続けたい」と言われるよう地域に貢献していきたい(秋山社長)と話している。